

2 教育目標設定の基本的な態度

前述のような目標設定の背景をふまえ、目標設定を進める場合、これから取りかかる設定の方向を明らかにし、目標設定に対する基本的な態度の確立を図っておく必要がある。

そこで、足利市立教育研究所が中心となり、昭和49、50年の2か年間にわたって、足利市教育目標設定準備委員会を組織し、目標設定のための基本的な態度について検討した。

ここで検討されたこととして、次の八つがあげられた。

- ① 足利市民の意識や実態を十分ふまえ、市民参加による目標設定をする。

地域教育目標の設定は、地方教育委員会の任務であり、これを一部の人たちによって設定されるようなことは避けるべきである。

とりわけ、設定された目標が、より足利市の地域性に根ざしたものであり、市民一人ひとりの生活の中に生きてはたらく目標となるためには、足利市の多くの人たちの参加によって設定されなければならない。

- ② 足利市の社会的・経済的・政治的な生活の課題に根ざした目標とする。

足利市の教育目標を設定する際に、子供たちを含めた足利市の人々の日々の生活の課題から教育課題を明らかにし、目標設定をすることが大切である。

こうすることにより、設定されてくる目標は、足利市の人々の生活に根ざした、生きてはたらく教育目標になる。

- ③ 足利の風土に根ざした目標とする。

足利市民は、足利の自然環境や歴史的あるいは文化的な社会環境の中で、日々の生活を営んでいる。これらの足利市の地域性や市民性を明らかにし、目標設定をすることが大切である。

- ④ 憲法、教育基本法、学校教育法、社会教育法等の法令にのっとった目標とする。

目標設定する際に、まず、足利市が取り組むべき教育課題を明らかにし、それらに基づいて目標設定がなされなければならない。

しかし、足利市が取り組むべき教育課題は、地域性や特殊性ばかりでなく、広く一般性や普遍性を兼ね備えている必要がある。

そこで、まず、足利市の地域性や特殊性のある教育課題を摘出し、それらを日本国憲法、教育基本法、学校教育法、社会教育法等から導き出される一般的・普遍的な教育課題の綱目を通すことにより、一般性・普遍性を兼ね備えた「足利市の教育課題」にし、それらに基づいて目標設定することが大切である。

- ⑤ 広く日本の社会の課題、ひいては国際社会の課題に結びついた目標とする。

足利市という地域社会の向上発展のために、解決していかなければならない教育課題は、数限りなくある。しかし、それらの中で、たとえそれが小さな課題と考え

Ⅲ 足利市の教育目標設定の基本構想

られるようなものであっても、その根底にあるものは、日本の社会の課題さらには、国際社会の課題に結びつくものでなければならない。

足利市の教育課題の抽出及び目標設定は、広く日本の社会の課題さらには、国際的な視野から見通していくことが必要である。

- ⑥ 未来社会を展望し、現在及び未来に対応できるような目標とする。

教育目標の設定に際し、長期的な展望に立って、足利市の教育に要請されるものを明らかにしなければならない。

すなわち、未来社会を展望し、現在及びこれからの社会を見通したとき、取り組まなければならない教育課題を明らかにし、それに基づく目標設定がなされなければならない。

- ⑦ 先進地域の実践を生かした目標設定をする。

現在までに、各県や各市町村において地域の教育目標を設定し、実践してきているところもある。そこで出されているいろいろな問題点を明らかにし、それらを検討し、目標設定がなされなければならない。

- ⑧ 生涯教育の立場から、次のような教育の統合を図り、目標設定をする。

ア 乳幼児期から高齢期に至る年齢的な発達段階に即した教育の統合

「人間の全体的発達」を図っていくことが、生涯教育の基本原則である。

人間の発達には、適時性があり、人間が成長していく段階には、その時に獲得されなければならない能力とか、その時に果たさなければならない課題がある。人間が成長していく過程の中で、各段階にどのような発達上の課題があるのかを明らかにし、子供は子供の段階で、青年は青年の段階で、高齢者は高齢者の段階でその発達を保障し、援助していく教育の体系化を図ることが大切である。

イ 各種の教育機能の統合

「人間の全体的発達」を達成するために、各種の教育機能を明らかにし、それらの統合を図ることが大切である。「人間の全体的発達」を達成するためには、家庭教育、学校教育、社会教育、地域社会や職場での教育等の受け持つ役割や分担を明らかにし、それらの有機的なかかわりを明らかにし、目標設定がなされなければならない。

以上のような目標設定に対する基本的な態度に基づき、昭和51年度から5か年計画で足利市の教育目標設定が進められた。